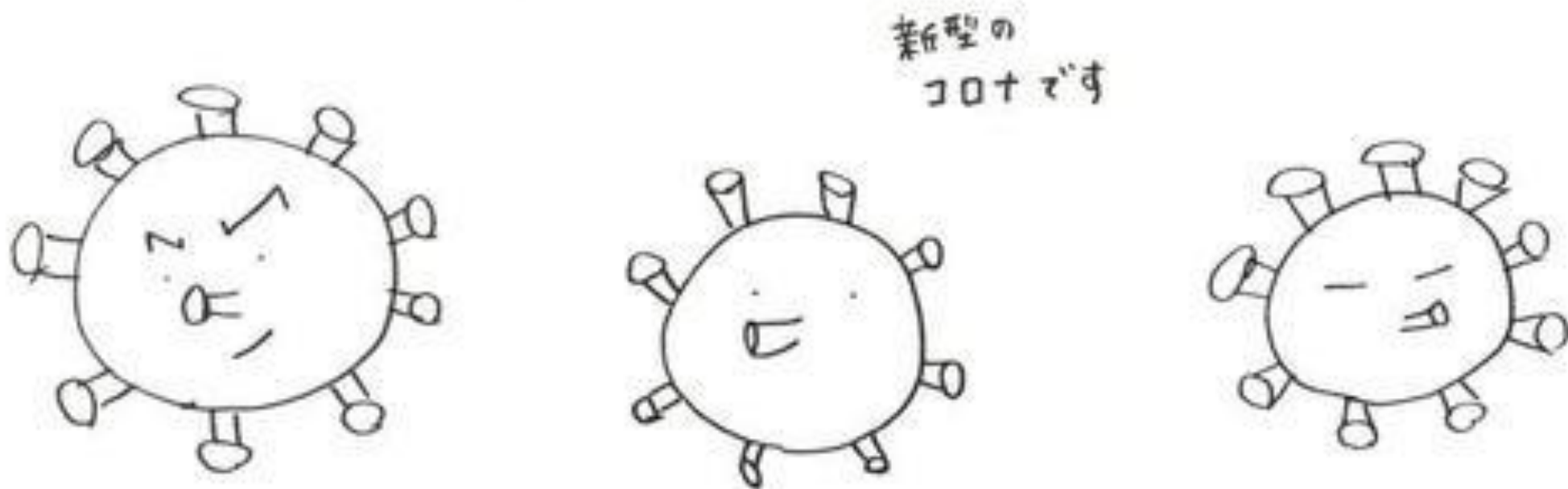




新型コロナウイルスの 3つの顔を知ろう！

～負のスパイラルを断ち切るために～



新型コロナウイルスによる感染が
流行しています。



実はこのウィルスが怖いのは、

「**3つの“感染症”**」という顔

があることです。

知らず知らずのうちに私たちも

影響を受けていることをみなさんは
ご存知ですか？

ウイルスの「3つの顔」？

「3つの感染症」ってなに？

今回の新型コロナウイルスだけでなく、人から人へ感染する病気には、「病気」そのものの以外にも、人間や社会に悪い影響を与える「顔」があります。

感染症を大流行させる見えないウイルスが持つ
「3つの顔」・・・いったい、なんでしょう？

「3つの顔」・「3つの感染症」とは

①「**病気**」そのもの

②病気への「**不安**」、「**恐怖**」

③「**差別**」、「**偏見**」、「**忌避**」

ウイルスがもたらす

第1の“感染症”は 病気そのものです

このウイルスは、感染者との接触でうつることがわかっています。

感染すると、風邪症状や重症化して肺炎を引き起こすことがあります。



①「病気（感染症）」そのもの

もちろん、ウイルスの最初の影響は、感染して「病気」になることです。

今回の感染症はこれまでと姿を変えたウイルスが原因なので、治し方や薬が、まだありません。
このためこの病気になったら、なかなか治りませんし、治療のやり方が分かっていません。
ですので、亡くなる方も多くある現状です。

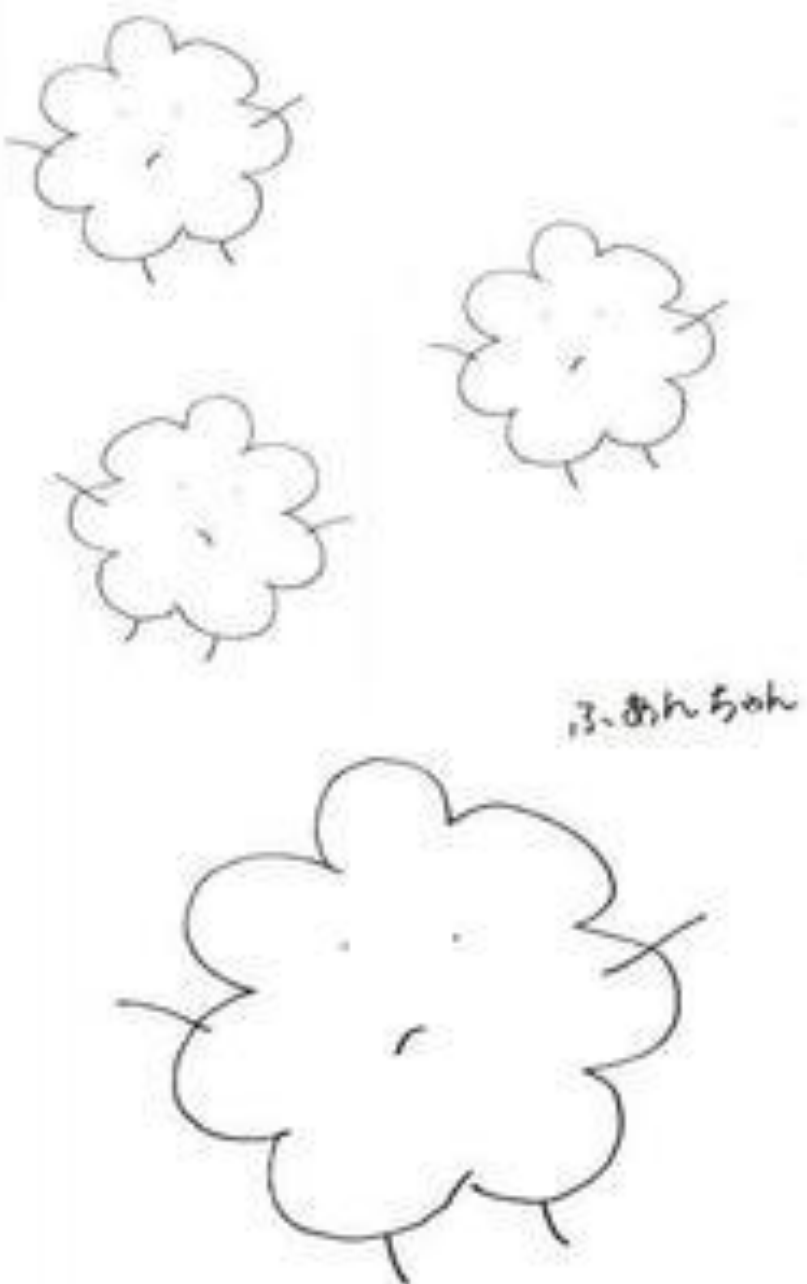
ウイルスがもたらす

第2の“感染症”は 不安と恐れです

このウイルスは見えません。ワクチンや薬もまだ開発されていません。

わからないことが多いため、私たちは強い**不安や恐れ**を感じ、ふりまわされてしまうことがあります。

それらは私たちの心の中でふくらみ、**気づく力・聴く力・自分を支える力**を弱め、瞬く間に人から人へ伝染していきます。



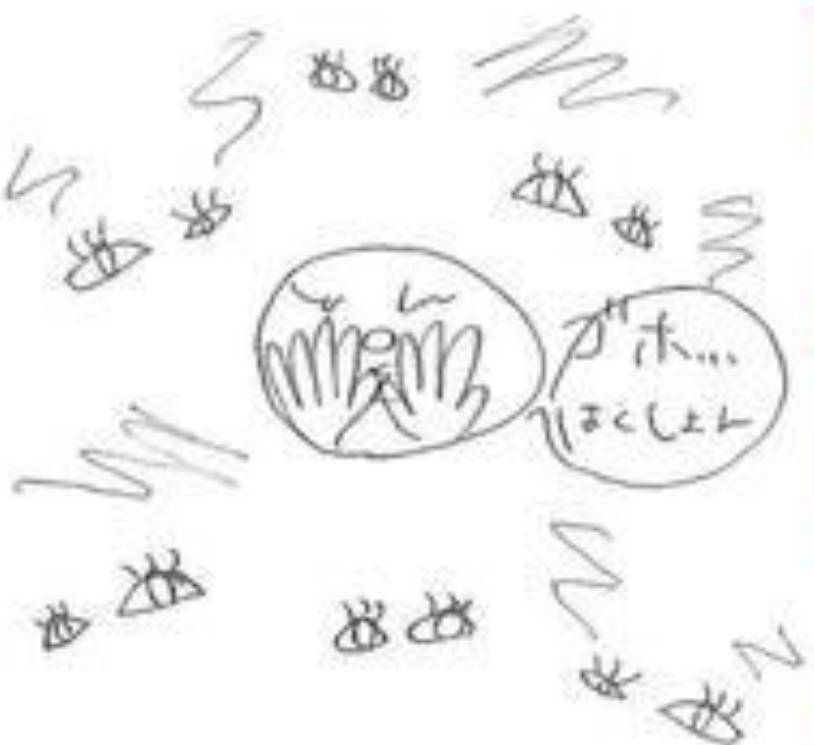
②「不安」・「恐怖」

得体の知れないウイルスに感染して「病気」なる、死ぬかもしれない・・・。

それに対する「不安」や「恐怖」が、
人の心に広がり、多くの人に広まります。
それらは、人の心を混乱させ、すき間を生みます。

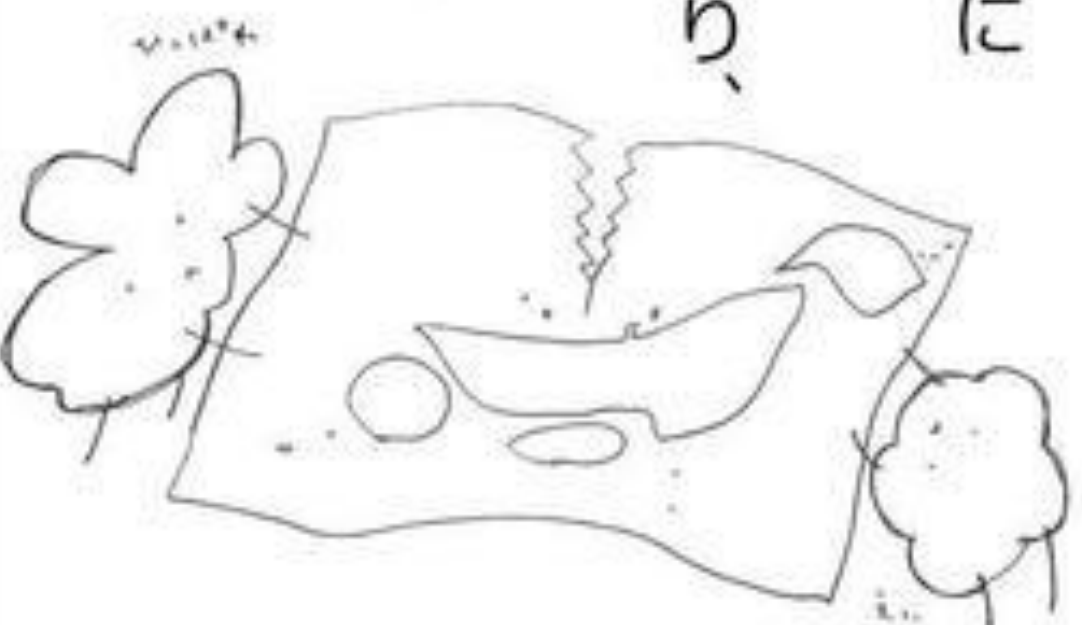
そのすき間に忍び込んでくるものがあります。

第3の“感染症”は 嫌悪・偏見・差別です



不安や恐れは人間の**生き延びようとする本能**を刺激します。

そして、ウイルス感染にかかわる人や対象を日常生活から遠ざけたり、差別するなど、人と人の信頼関係や社会のつながりが壊されてしまいます。



なぜ、嫌悪・偏見・差別 が生まれるのか

見えない敵（ウイルス）
への不安

敵はウイルス

特定の対象を見える敵と
見なして嫌悪の対象とする

敵がすり替
わってしまう

嫌悪の対象を偏見・差別し
遠ざけることでつかの間の
安心感が得られる

本当の敵を
見なくなる

でも私もいつ
言われるか
わからない…
ふあん…

あんなこと
言っちゃった
けど…

咳をしてい
るあの人、
コロナかも。

△△地区は
危ない

××人だ、
危ない

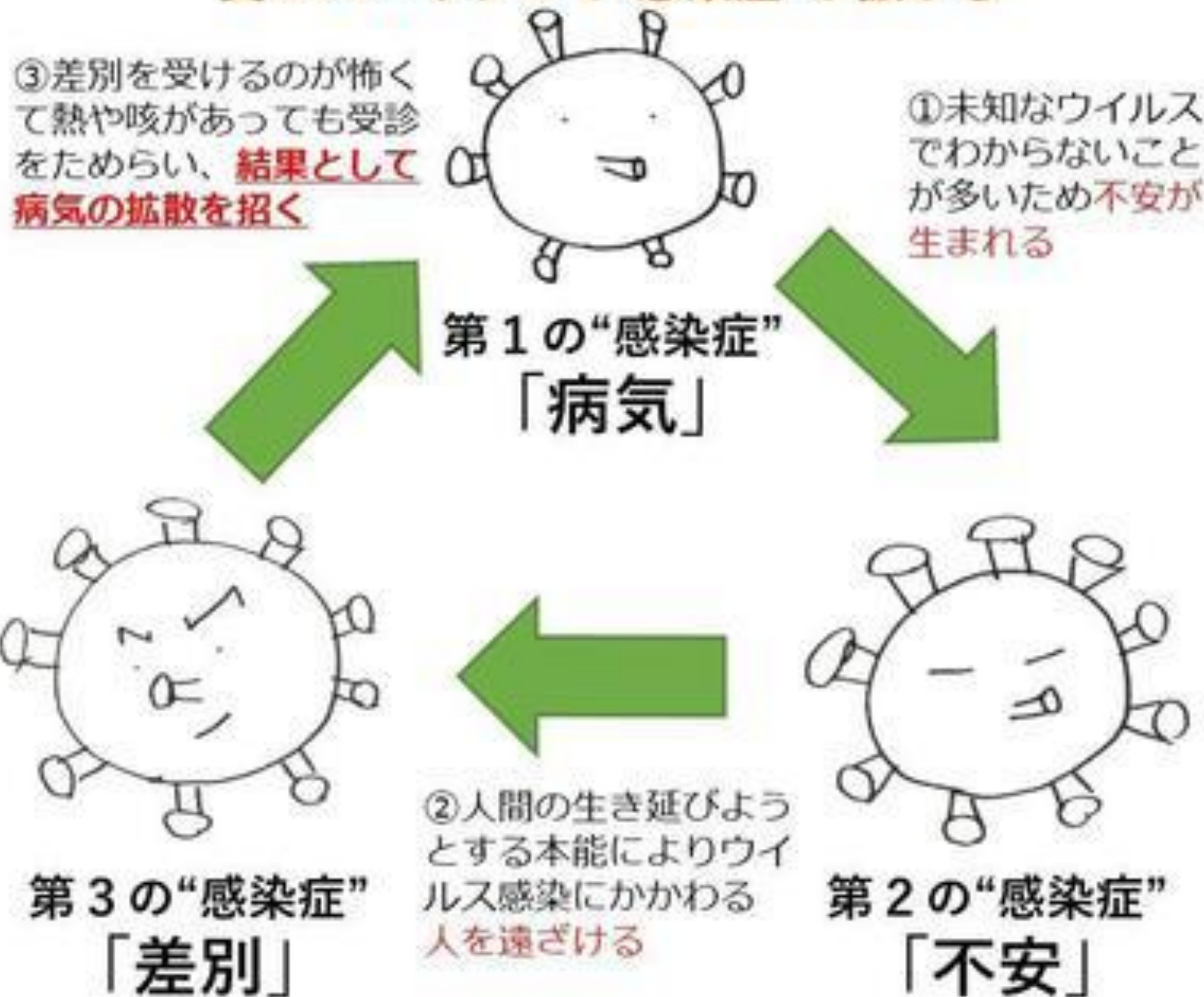
コロナ禍で起きていること

- 「紙が不足する」というデマによる買い占め
- マスクの奪い合い
- 発見当初、欧米で東アジア人へのヘイト言動
- 発生源とされた国の人たちへの偏見・差別
- 感染者の身元調査とSNSなどでの拡散
(犯人捜しのように・・・)
- 感染者、家族らへの誹謗中傷(SNSなどを使って)
- 患者に接する医療関係者や家族への忌避
- 店員の方、配送業の方などへの忌避
- さまざまな悪意あるデマの発信と拡散
- 「自粛警察」の横行。 その他、ご承知の諸々・・・

3つの“感染症”は

どうつながっているの？

負のスパイラルで“感染症”が広がる



この“感染症”の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながることです。

皆さんも、

ウイルスに関する悪い情報ばかりに目が向いていたり、なにかとウイルスに結び付けて考えたりしていませんか？

「あの人咳してる・・・コロナなんじゃない」「あの地域はコロナが流行っているからあそこものを買うのはやめよう・・・」

「熱があるけど怖いから黙ってしよう・・・」

このように思い、行動することから

“感染症”は広がっていきます。

**これらの“感染症”をふせぐために、
私たちはどのような工夫ができる
でしょうか？**

うーん



第2の“感染症”に



ふりまわされないために

不安や恐れは私たちの

気づく力

聴く力

自分を支える力

を弱めます。

不安や恐れは身を守る為に必要な感情ですが、私たちから力を奪い、冷静な対応ができなくなることもあります。



第2の“感染症”にふりまわされないために

気づく力を高める

まずは自分を見つめてみましょう

- ・ 立ち止まって一息入れる。
(深呼吸、お茶を飲む)
- ・ 今の状況を整理してみる。
- ・ 自分自身をいろいろな角度から
観察してみる。
(考え方、気持ち、ふるまいなど)



第2の“感染症”にふりまわされないために

聴く力を高める

いつもの自分と違う所はありませんか？

・ウイルスに関する悪い情報ばかりに
目が行っていませんか？

・ なにかと感染症に結び付けて考えて
いませんか？

- ・趣味の時間や親しい人との交流が減っていませんか？

- ・生活習慣が乱れていませんか？

普段と変わらず続けられることはありますか？



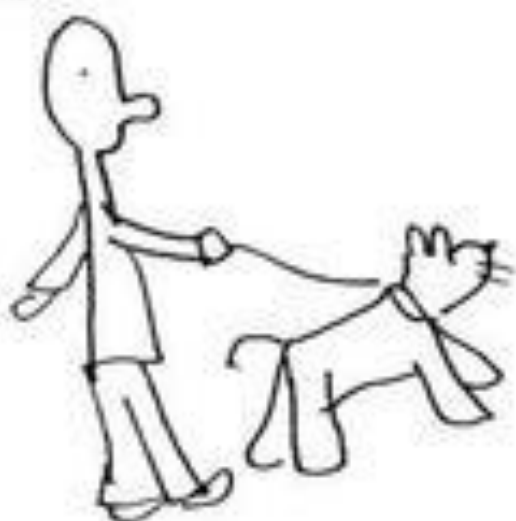
第2の“感染症”にふりまわされないために

自分を支える力を高める

自分の安全や健康のために必要なことを見極めて自ら選択してみましよう

- ・ウイルスに関する情報にさらされるのを制限し、距離を置く時間を作る。
- ・いつもの生活習慣やペースを保つ。
- ・心地よい環境を整える。
- ・今自分ができていることを認める。
- ・今の状況だからこそできることに取り組んでみる。
- ・安心できる相手とつながる。

お散歩しよう



第3の“感染症”を

ふせぐために



不安を煽ることは病気に対する偏見や差別を強めます。

- ・「確かな情報」を拡めましょう。
- ・差別的な言動に同調しないようにしましょう。



第3の“感染症”を

ふせぐために

みなさんそれぞれの場所で感染を拡大
しないように頑張っています。

- ・ 小さな子どもがいる家庭
- ・ 高齢者
- ・ 治療を受けている人とその家族
- ・ 自宅待機している人
- ・ 医療従事者

・ 日常生活を送って社会を支えている人
この事態に対応しているすべての方々を

ねぎらい、敬意を払いましょう。

～過去の感染症などの例から～

- 感染症の大流行は、もちろん今回の新型コロナウイルスが人類にとって初めてではありません。
- 今は、あたかも新型肺炎のみが人を殺す病気のように誰もが思い込んでいて、社会生活の歪みに拍車をかけているように感じます。
- 古代から、大流行の度に「病気」そのものの以外の人権に関わる問題が起こっています。
- その一部を振り返ってみます。

①ペスト

- 世界各地で、古代から何度も大流行を繰り返してきた疫病です。「黒死病」とも呼ばれて、ずっと人々に怖れられてきました。
- ボッカチオの「デカメロン」、カミュの「ペスト」などの文学作品は、疫病という不条理への不安と恐怖が題材です。
- 大流行時には「ユダヤ人が井戸に毒を入れた」というデマが流れ、たくさんのユダヤ人が殺されたと言われています。
- このお話は、大正時代の関東大震災の時に朝鮮人が同じデマで虐殺された事件とそっくりです。

人は、大災害時にパニック(恐慌)に陥ります。

感染症や大地震は、人間にとって「不条理」な仕打ちです。「なぜ、こんなひどい目に遭うのか？」 古くは神様による罰とされていました。

でも、神様には逆らいようがないので、不条理への怒りを誰かにぶつけることで、あるいは誰かの責任にして攻撃することで束の間の癒しを得ようとするのでしょう。

その矛先はやはり、少数派の弱者に向けられます。関東大震災の時も、「正義」の自警団が、朝鮮人や中国人同国人を襲撃しています。今回のコロナ禍の「自粛警察」とも似ています。

欧州中世のペスト医師。感染予防のための独特の姿です👉



②ハンセン病(らい病)

感染力はごく弱いですが、らい菌による感染症です。菌が発見される以前は、遺伝する病のように考えられていました。

皮膚と神経を冒し、外見が変わることから、古来、世界中で、偏見・忌避・差別の対象になっていました。

日本では明治期に「らい予防法」が制定され、行政による患者の強制隔離が進められました。

役所が患者を探し出し、連行して、離島や山中の隔離施設に閉じ込めてきました。

患者の発見のためには、一般市民の通報や密告が勧められました。おそらくデマもあったでしょう。

1943年には、すでに効果のある薬が確認されていたのに「らい予防法」が廃止されたのは1996年です。

鳥取県には「無らい県運動」という、患者の強制隔離を県民あげて強力に進めた歴史があります。

今回の新型コロナウイルスの感染防止に関連して、平井知事が「ハンセン病の悲劇を繰り返さないように・・・」と述べている背景がこれです。

国民が相互に監視し、感染者を搜索、通報し、家系まで忌避・差別する……。コロナウイルスについてネット上で行われていることと、これもそっくりです。

ハンセン病は今は完治する病気であり、療養所にお住いなのは、回復者の方々です。回復しても家に帰れない。差別が及ばないようにと、家族と縁を切り、名前も変えて生きてこられたのです。

日南町に縁ある、松本清張氏の小説「砂の器」は、この悲劇が題材です。☆執筆当時は「らい予防法」があり、重大な差別事象であることを社会が気づけていませんでした。

映画「砂の器」1974年公開
原作 松本 清張

砂の器

ハンセン病を患ったために、
家族への差別を避けようと、
故郷の村を捨て、遍路として
物乞いをしながら放浪する
父と子



👉 療養所を訪ねてきた刑事から、
強制隔離によって引き裂かれた後に
無事成長した我が子の写真を見せら
れるが、ハンセン病患者の息子と
知られることを恐れ否定する老いた父。

「ああああ・知らね、知らね、
そんな人知らねえ……」

「慟哭(どうこく)」というものを知りました……。



③HIV(AIDS＝エイズ＝後天性免疫不全症候群)

1980年代に症例が確認されたウイルスによる感染症。粘膜から感染しやすいという特性から、男性の同性愛者、不特定多数と性交渉のある方、注射器を使い回す麻薬常習者の感染が多く、研究が進む以前の段階では、背徳的行為が原因とされ、宗教的倫理観を背景に感染者への偏見と差別はとても厳しいものでした。特に、ゲイ男性への攻撃が目立ちました。現在は治療法や予防法が確立しつつあります。

当時は特に、性的指向についての差別を後押しする形となりましたし、性的なビジネスが温床となる可能性が高いため、就労者への一層の差別にもつながりました。

医学・薬学の進歩により、一定の沈静を得ることができたため、LGBT(性的少数者)の解放運動が活性化できたのかもしれません。



👉昭和62年(1987年)、神戸市内で国内初の女性エイズ患者が確認された時の新聞記事。現在の新型コロナウイルス流行当初の報道とほぼ同じ印象です。海外の特定の性的指向の男性固有の病気としてとらえていたため、女性患者の確認で社会的パニックになりました。

感染への不安、感染者として差別される恐怖から精神を病んだり、自殺を図る人もあったと言われています。

日本では、海外から輸入され、血友病患者に投与された血液製剤にウイルスが混入し、感染者を生み、薬害事件となりました。その頃、強い偏見を持たれていた行為にはまったく関係がなく、偶然に感染した方々も、偏見と差別の対象になっていきました。

日本では現在では行われていませんが、海外では売血により収入を得て生きる貧困層にHIV保有者が多いとも言われます。だとすれば、社会の構造が生んだ因果なのかもしれません。

現在では、治療薬の発達により先進国では大々的に取り上げられなくなったエイズですが、アフリカ諸国ではパンデミック(大流行と恐慌)になっています。

地球の南と北の経済・生活水準の格差や文化の違いが原因かもしれません。アフリカはエボラ熱などの多くの感染症を抱えているうえに、ついに新型コロナウイルスも蔓延しました。

コロナ禍の以前に、国際社会は世界の人権課題である南北格差の改善に取り組もうと決め、SDGs（持続可能な開発目標）を掲げていました。

そして今、コロナ禍の中、そして次のコロナ以後、日本を含む国際社会は、この課題にどう取り組めるのでしょうか。コロナ禍での自国の人権課題を乗り越え、コロナ後に、この経験を総括し、他国の救済や、次の感染症禍に備えることが課されたのでは、と思います。



④福島県原発事故（感染症ではありませんが・・・）

2011年3月、東北地方沖で発生した大地震と津波が福島第1原子力発電所を襲い、電源を喪失した原発は爆発を伴う事故を起こしました。これにより多量の放射性物質が大気、海洋に放出されました。

ウイルスと同じように目に見えない放射能によって周辺住民の方たちは避難を余儀なくされたうえ「放射能で汚染されている」として忌避、差別されました。

また、地域の農産物、海産物も放射能を含むとして買い手がなく、売ることができなくなりました。

新型コロナウイルスの現状と同じように、放射能の危険性は何十年経っても解明（表明？）されていません。このため、見えざる敵への「不安」と「恐怖」

によって、被災者への偏見、忌避、差別が巻き起こりました。情緒的な同情は叫ばれても、差別は消えませんでした。

一方では「放射能は無害だ」という、これも根拠のない主張が大きくなり、原発や放射能を怖れる人たちを「非科学的な差別者だ」とする、カウンターの差別と言論の封殺が始まりました。原発推進派と反対派の誹謗中傷合戦に陥ったのです。

原子力エネルギー政策が当初から、そのリスクについて明確な説明を行わないまま推進されてきたため、事故に直面して、複雑な差別と国民の分断の構図を生み出したのではないかと(私は)考えています。

見ることもできない、解明もされていない敵への「不安」「恐怖」に差別が忍び込む典型的なケースです。

事故後の処理も、避難者の支援も、帰郷も、津波の被災者と同じく、未だにほとんど前進していないのではないかと想像（あまり報道されませんので・・・）しています。

それは「棄民（きみん）」という言葉でしか表現できないように思います。

国民みんなが忘れたくて疎外しているのでしょうか。



1986年に大事故が発生した旧ソビエト連邦のチェルノブイリ原発。事故後、放射線を遮断するため分厚いコンクリートで覆われ「石棺」と呼ばれました。2016年には、その石棺をさらに覆う鉄とコンクリート製の巨大なシェルター（W-275m,L-162m,H-108m）が造られました。

ロシアは、34年を経ても先の見えない事故処理を膨大な費用をかけて続けています。

【おわりに】

やはり「不安」と「怖れ」が偏見や差別を生むようです。

新型コロナウイルスについては、まだ分からないことばかりなのに、多くの人が、犯人や悪役を探してしまいます。発生国が悪い、日本に持ち込んだ人が悪い、医療機関が悪い、都道府県が悪い、政府が悪い、WHOが悪い。隣人も、友人も、お店の人も、宅配の人も悪い奴かもしれない……。誰かを犯人・悪役に決めて糾弾していると、ひととき「不安」や「怖れ」を忘れられる。わけですが、コロナ後の社会がバラバラになっていないように、コロナ以前に、私たちが目指していた社会がどんな姿だったのか、を思い起こして、今を過ごしましょう。

★今の子どもたち、若い人たちは、コロナ禍を経験してオトナになる👉感染症対応についての未来の先輩！

【追記 R3. 1月】

◎全世界を、流行の第3波が襲っています。

◎日本の地方、鳥取県でも感染者が急増、死者も。

◎ワクチンの接種が始まって、変異種が登場

さらにワクチンの絶対量の不足➡まだコロナ禍は続く

★1月7日「緊急事態宣言」の再発令・・・全国へ拡大？

さらに事態が悪化すれば「要請」から「命令」へ・・・

これは国家による「個人の権利＝基本的な私権」の制限

人権上の議論は、さらに大きくなる。

★コロナという禍（わざわい）は、「人権とは、自由とは何ぞや？」とも問いかけてくる。

……………ご清聴、ありがとうございました。